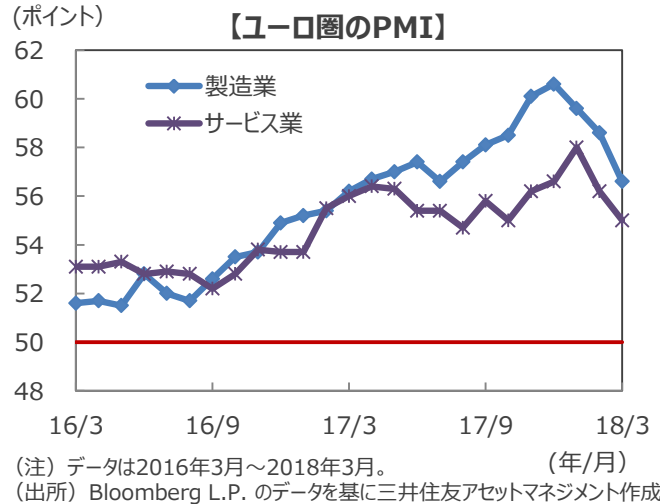


今日のトピック 景気の勢いがピークを超えたユーロ圏経済

景気は堅調さを維持、金融政策は正常化へ向かう

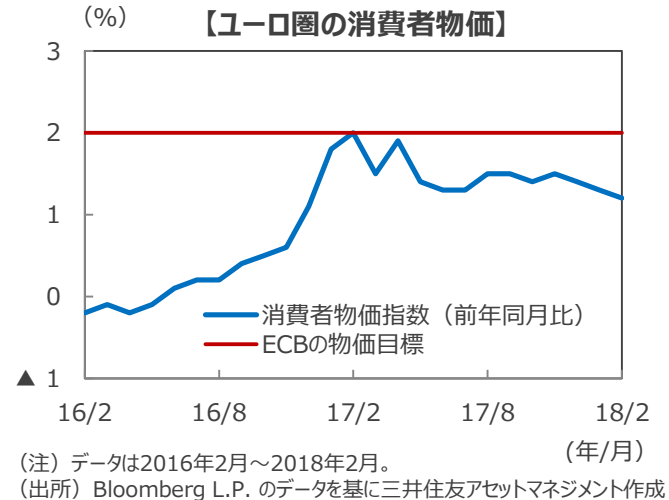
ポイント1 景気は堅調さを維持しよう
昨秋が景気の勢いのピーク

- ユーロ圏景気は堅調さを維持する中、昨秋が景気の勢いのピークだったと見られます。ユーロ圏の3月のマーケット製造業購買担当者景気指数（PMI）は前月比▲2.0ポイントの56.6、同サービス業PMIは同▲1.2ポイントの55.0となりました。
- PMIは50が景況感の分岐点となっており、50を上回れば景況感が良いとされています。ユーロ圏のPMIは足元で低下してきているものの、50を大きく上回っており、今後も景気は堅調さを維持すると見られます。



ポイント2 インフレの上昇ペースは減速
金融政策は正常化へ向かう

- ユーロ圏の2月の消費者物価指数は、食品やエネルギー価格の低下が影響し、前年同月比+1.1%となりました。欧州中央銀行（ECB）が目標とする2%近傍を下回り、上昇ペースは減速傾向となっています。
- 8日に開催されたECBの理事会では、金融政策が据え置かれました。ただし、景気が堅調なことや、ドイツの連立政権発足など政治面に安定がみられることなどから、これまで声明文にあった「状況が悪化すれば、債券購入の規模拡大や期間延長を実施する用意がある」との文言が削除されました。



今後の展開 財政政策や金融政策のサポートにより、安定した成長が続く

- ユーロ圏経済は、2018年に入りやや減速しているものの、財政政策や金融政策のサポートにより、今後も安定した成長が見込まれます。また、物価や賃金上昇率は、来年にかけて緩やかに上昇へ向かうと考えられます。景気が堅調なことから、金融政策は今後徐々に正常化へ向かい、資産購入プログラムを2018年9月で終了し、2019年には利上げが実施されると見込まれます。

ここもチェック! 2018年3月9日 ECBの金融政策は現状維持（2018年3月）
2018年3月6日 ドイツの『大連立政権』がようやく発足へ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。